詳細設定ガイド

Y613-09348-02 Rev.B

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-BARMX2を指します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　　]	[　　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：OK → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows® .... Microsoft® Windows® Operating system

Windows® XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system

Windows® 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

Windows® Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system

Windows® 98SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

PART 1

こんなときにはこの設定

このPARTでは、本商品をより便利にご利用いただくための設定方法について説明していますが、設定を行うには本商品に接続されているパソコンが、ネットワークに接続可能な状態であることが必要です。まだ本商品とパソコンを接続していない場合や、ネットワークに接続していない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または本書の「『かんたんスタート』CD-ROMを使わないでネットワーク接続するには」（P.22）からの手順を行ってからお読みください。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは、ゲームサーバとデータの送受信を行う特定のポートを利用するため、本商品にUPnP設定を行う必要があります。

お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

●UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本商品の設定が行われます。設定画面で次の設定を行います。

1　設定画面の「詳細設定」－「UPnP」（P.57）を選択します。

2　「UPnPを使用する」で「有効」を選択し、［設定］を押します。

3　「UPnP使用ポート」を押して、ポートの状態を確認します。

- **Windowsにて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ（UPnP）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。**
- **UPnP機能は、Windows XPでご使用いただけます。**

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

DMZ機能を使います。設定画面で次の設定を行います。

1　設定画面の「詳細設定」－「DMZ」（P.57）を選択します。

2　「DMZホスト」でホストとなるパソコンを選択し、［設定］を押します。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN Messengerを利用する場合の設定を説明しています。本商品は、NetMeeting、MSN Messenger（Ver.7.0 以降）に対応しています。ソフトの使用方法は、各ソフトのヘルプやホームページをご覧ください。

●NetMeeting

NetMeeting を使用するには DMZ 機能を使います。設定画面で次の設定を行います。

1　設定画面の「詳細設定」－「DMZ」（P.57）を選択します。

2　「DMZ ホスト」でホストとなるパソコンを選択し、［設定］を押します。

・DMZ機能の対象となっているパソコンは､本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

・NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

●MSN Messenger（Ver.7.0以降）

本商品はUPnPに対応しているので、MSN Messengerを利用する場合は、自動的に本商品の設定が行われます。

1　設定画面の「詳細設定」－「UPnP」（P.57）を選択します。

2　「UPnP を使用する」で「有効」を選択し、［設定］を押します。

3　「UPnP 使用ポート」を押して、ポートの状態を確認します。

・MSN Messenger は Ver.7.0 で動作確認しております。

・対応 OS は Windows XP Service Pack1（SP1）以降です。

外部にサーバを公開するには

●バーチャル･サーバでポートを開放する

バーチャル・サーバ機能で本商品のポートを開放し、外部にサーバを公開することができます。

1　設定画面の「詳細設定」ー「バーチャル・サーバ」を選択します。

2　「接続先」で、バーチャル・サーバにするパソコンを選択します。

3　「サービス」と「プロトコル」を選択し、［登録］を押します。

「ポート範囲」は、「サービス」で「ユーザ定義」を選択した場合に、任意の数値を入力します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「バーチャル・サーバ」（P.56）をご覧ください。

●ダイナミックDNSを使用してURLで接続する

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャル・サーバなどに接続することができます。設定する場合は、本商品に接続したパソコンがインターネットに接続できることが必要となります。

1　設定画面の「WAN 側設定（インターネット）」ー「ダイナミック DNS」を選択します。

2　ダイナミックDNSサービスに未登録の場合は、画面の「corede.net」（無料、一部サービスは有料／日本語ページ）、「DynDNS.org」（無料／英語ページ）、「IvyNetWork」（有料／日本語ページ）のいずれかを押し、ダイナミックDNSサービスに登録します。すでに登録されている場合は、登録せずに手順３へお進みください。

- ダイナミックDNSサービスへの登録について詳しい説明をホームページからご覧になることができます。コレガのホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」ー「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください。
- 「DynDNS.org」、「IvyNetWork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミック DNS サービスについては、弊社サポートの対象外となります。
- 「@Net DDNS」は登録会員のみのサービスとなります。ご利用いただく場合は、あらかじめ加入者サポートページよりダイナミック DNS サービスをお申し込みください。

3　ダイナミックDNSサービスへの登録が完了したら、登録した「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」を控えておきます。

4　本商品の設定画面の画面に戻り、画面下にある表の「ダイナミックDNS」で、登録したダイナミックDNS サービスを選択します。

5　「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」の各欄に、登録した情報を入力します。

6　［設定］を押します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「ダイナミック DNS」（P.50）をご覧ください。

外部にネットワークカメラ(カメラサーバ)の映像を公開するには

本商品にネットワークカメラを接続して、撮影した画像をインターネット上に配信することができます。その場合は、「PCデータベース」「ダイナミックDNS」「バーチャルサーバ」などの設定を行う必要があります。

設定に関する詳しい説明をホームページからご覧になることができます。コレガのホームページ(http://corega.jp/)から「製品情報」ー「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

●プロバイダとフレッツ･スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション -1 の Account-1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する場合

1 通常のプロバイダの設定を行います。設定画面の「WAN 側設定（インターネット)」を選択します。

2 「PPPoE」のラジオボタンを押して選択し、下の「PPPoE」画面で［セッション-1 設定］を押します。

3 「セッション選択」は「セッション 1」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します（例として「Account-1」を選択します）。

4 プロバイダから通知された内容（「接続ユーザ ID」、「接続パスワード」、「接続パスワードの確認」）を入力し、「PPPoE サービス・タイプ」は「PPPoE」を選択して、［設定］を押します。

5 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。「セッション選択」は「セッション -2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します（例として「Account-2」を選択します)。

6 「接続ユーザ ID」と「接続パスワード」は、それぞれ下記の表の内容で入力します。

	NTT 東日本のエリアのお客様	NTT 西日本のエリアのお客様
接続ユーザ ID	guest@flets	flets@flets
接続パスワード	guest	flets

（2006 年 11 月現在）

7 「DNS サーバ」で「自動設定」を選択します。

8 画面上側にある「PPPoE」のラジオボタンを押し（ラジオボタンにチェックがついていても押してください)、「PPPoE」画面が表示されたら「接続先設定（セッション 2 のみ有効)」を押します。

9 「接続アカウント」で「Account-2」を選択します。

10 「ルール選択」で「ドメイン名」を選択し、「ドメイン名」に「.flets/」と入力します。

11 ［登録］を押します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「PPPoE」（P.45）をご覧ください。

●複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバなどを公開することができます。

例：設定するパソコンの IP アドレスを「●●●．○○○．□□□.115」と設定したい場合

項目名	プロバイダからの情報
IP アドレス	●●●．○○○．□□□.113 ～●●●．○○○．□□□.120
サブネットマスク	255.255.255. ◆◆◆
DNS サーバ	XX.XX.XX.XX

1　設定画面の「WAN 側設定（インターネット)」で「PPPoE」を選択し、下の「PPPoE」画面で［セッション -1 設定］を押します。

2　「アカウント選択」は任意のアカウントを選択し、「接続ユーザID」、「接続パスワード」、「接続パスワードの確認」を入力します。

3　その他を以下のように設定します。
・PPPoE サービス・タイプ→「Unnumbered IP」にします。
・ルータ IP →「●●●．○○○．□□□.114」と入力します（プロバイダから割り当てられた最初の IP アドレスが入ります）。
・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」と入力します。
・DNS サーバ→「マニュアル設定」を選択し、「DNS サーバ 1」に「XX.XX.XX.XX」と入力します。

4　［設定］を押します。

5　設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。

・IP アドレス→「●●●．○○○．□□□.115」（設定したい IP アドレス）
・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」
・デフォルトゲートウェイ→「●●●．○○○．□□□.114」（ルータ IP と同じで可）
・DNS サーバ→「XX.XX.XX.XX」

メモ　**TCP/IPの変更方法については、本書の「『かんたんスタート』CD-ROMを使わないでネットワーク接続するには」（P.22）をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。**

6　本商品の設定画面に再度アクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に入力する IP アドレスを「WAN 側設定（インターネット)」で設定した「●●●．○○○．□□□.114」と入力します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「PPPoE」（P.45）をご覧ください。

Unnumberedを利用する場合は、LAN側のパソコンに固定IPアドレスを設定する必要があります。

本商品をスイッチングハブとして使用するには

アッカ･ネットワークスやイー･アクセス、NTTなどのルータ機能付きモデムをご使用の場合、本商品のルータ機能を解除（OFF／無効）にすると、本商品をスイッチングハブとして使用できます。本設定を行うにはルータ機能スイッチ、かんたんスタート、設定画面の３つの方法があります。ルータ機能スイッチを使用して「解除（OFF)」にした場合は、かんたんスタート、設定画面での設定変更はできません。

ルータ機能スイッチ	「かんたんスタート」CD-ROM	設定画面	本商品のLAN側IPアドレス
解除（OFF） 変更可（ON） ルータ機能 ※1	ルータ機能　「ON」※1	ルータ機能「有効」※1	192.168.1.1 ※1
	ルータ機能「OFF」	ルータ機能「無効」	192.168.1.220 ※2
解除（OFF） 変更可（ON） ルータ機能	ルータ機能「OFF」	ルータ機能「無効」	192.168.1.220 ※2

※1　本商品の工場出荷時の状態の設定です。
※2 「かんたんスタート」CD-ROMでルータ機能をOFFにした場合は、LAN側のIPアドレスは変更されません。

本書の手順を行う前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信ができるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法につきましては、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。

●本商品上面のルータ機能スイッチを使用する場合

1　本商品の電源を切り、上面の「ルータ機能スイッチ」を「解除（OFF)」に切り替えます。

2　パソコンの電源が入っている場合は電源を切ります。

3　本商品、パソコンの順に電源を入れます。

●「かんたんスタート」CD-ROMを使って設定する場合

「かんたんスタート」CD-ROM で設定する場合は、お使いの環境に合わせるため、上記で説明している IP アドレスとは異なります。

1　付属の「かんたんスタート」CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブに入れます。

2 「各種設定」タブを選択して「かんたんルータセットアップ」を押し、続けて［はい］を押します。

3 ［基本設定］を押します。

4　表示された画面にしたがって［次へ］を押し、ルータ機能設定画面まで進みます。

5　ルータ機能設定画面で「ルータ機能」を「OFF」に設定し、［次へ］を押します。

6　お使いの環境での「LAN 側 IP アドレス」と「サブネットマスク」の値が自動的に表示されます。

メモ **LAN 側 IP アドレスは、設定内容を変更する場合に必要となりますので、あらかじめ値をメモなどに控えておいてください。**

7 ［次へ］を押します。

8 「ユーザ ID」と「パスワード」を入力し、［次へ］を押します。

9 ［終了］を押します。

10 「かんたんスタート」CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブから取り出します。

11 パソコンを再起動します。

●設定画面で設定する場合

1 Internet Explorerを起動し、アドレス欄に「192.168.1.1」と入力して［Enter］キーを押します。

2 ログイン画面が表示されますので、ユーザ名に「root」と入力し、パスワードを空欄のままにして［ログイン］を押します。

3 画面左側のメニューから「モード」を選択します。

4 「ルータ機能」で「無効」を選択します。

5 ［設定］を押します。

6 パソコンの電源を切ります。

7 パソコンの電源を入れます。

パソコンのIPアドレスを調べたいときは

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法を行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

●Windows XP／2000の場合

1　「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」を選択します。

2　キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

「ipconfig」と入力します。
※画面例
「C:¥Documents and Settings¥corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

3　IPアドレスを確認します。

IPアドレスが表示されます。
※正しく表示されない場合は、「ipconfig ▮/renew」と入力して、「Enter」キーを押します（▮は半角スペースを入力します）。

●Windows Me／98SEの場合

1　「スタート」－「ファイル名を指定して実行」を選択します。

2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］を押します。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］を押した後、［書き換え］を押してください。

①ご使用のネットワークアダプタを選択します。
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

②確認します。

本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名）やパスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定画面の「管理」を選択します。

2　「管理者ログイン名」、「管理者ログイン・パスワード」、「パスワードの確認」に新しく設定するログイン名とパスワードを入力し、［設定］を押します。

メモ　「管理者ログイン・パスワード」は、半角英数 12 文字以内で入力してください。

最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは

本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは弊社のホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。
設定画面からでも、最新のファームウェアダウンロードページに接続することができます。詳しくは「PART2 設定画面を見てみよう」の「ファームウェア更新」（P.59）をご覧ください。

- 更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
- ファームウェアをアップデートする前に、設定内容をメモなどに控えておいてください。
- ファームウェアのアップデート中は、他の操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。アップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

●ファームウェアのアップデートをする

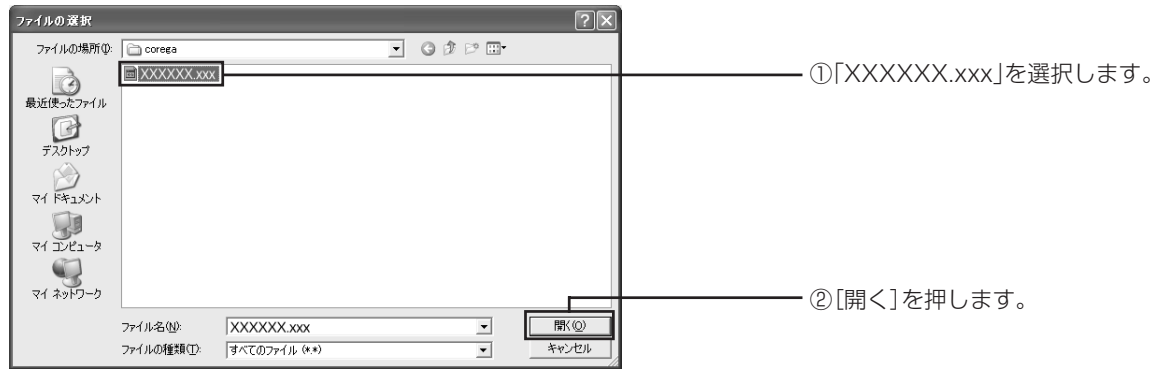
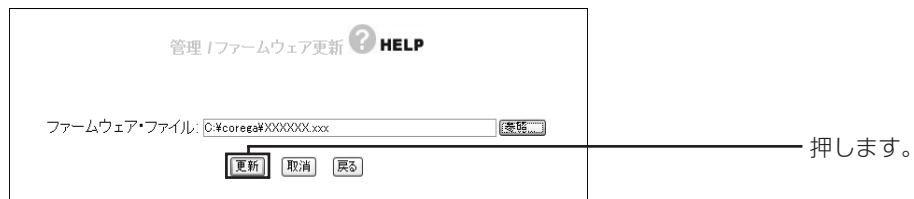
ここでは「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイル名で最新のファームウェアを保存した場合を例に説明します。

1　設定画面の「管理」を選択します。

2　「ファームウェア更新」を押します。

3　［参照］を押します。

4　次のダイアログボックスが表示されるので［OK］を押します。

5　「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、[開く]を押します。

6　[更新]を押します。

7　次のダイアログボックスが表示されるので[OK]を押します。

8　本体前面のSTATUS LEDが点灯し、ファームウェアの更新がはじまります。

9　STATUS LEDが消灯したら、初期化スイッチを使って本商品を工場出荷時の状態に戻してください。
　詳しくは「本商品を工場出荷時の状態に戻すには」（P.21）をご覧ください。

以上でファームウェアの更新は終了です。

●ファームウェアのアップデートに失敗した場合

ファームウェアのアップデートに失敗すると次のような画面が表示されます。再度ファームウェアのアップデートを行ってください。

■もう一度ファームウェアをアップデートする

1　「Software File Name」の［参照］を押し、再度ファームウェアの保存先を指定します。

2　［Update Software］を押します。

3　本体前面のSTATUS LEDが点灯し、ファームウェアの更新がはじまります。

4　STATUS LEDが消灯したら、初期化スイッチを使って本商品を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは「本商品を工場出荷時の状態に戻すには」（P.21）をご覧ください。

本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻すことができます。

●バックアップを取る

1　設定画面の「管理」を選択します。

2　「設定保存」の［保存］を押します。

3　「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されたら［保存］を押します。

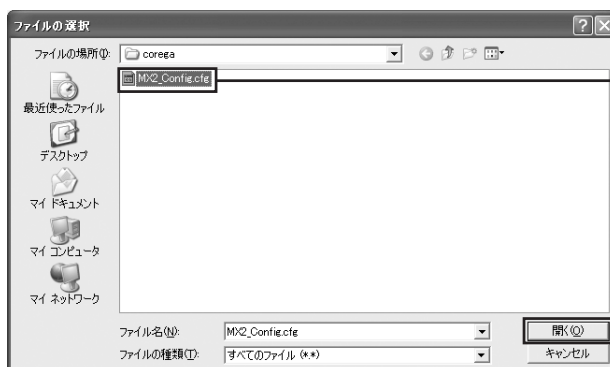
4　「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されるので、保存する場所を指定して［保存］を押します。

●元に戻す

1　設定画面の「管理」を選択します。

2　「設定読込」の［読込］を押します。

3　画面が表示されたら、［参照］を押します。

4　前ページ「バックアップを取る」で保存したファイルを選択して、［開く］を押します。

5　［読込］を押します。

6　「設定ファイルを読み込みます。よろしいですか？」と表示されるので、［OK］を押します。

以上で、本商品の設定を元に戻すことができました。

本商品を再起動するには

本商品の設定を変更した場合は、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。本商品を再起動するには、次の２つの方法があります。

本商品の「再起動」は「工場出荷時の状態に戻す」操作とは異なります。

●電源を一度抜く

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから一度抜き、その後挿し直します。

●設定画面を使う

1　設定画面の「管理」を選択します。

2　「再起動」の［実行］を押します。

3　「『再起動』を実行しますか?」と表示されるので、［OK］を押します。

4　再起動が実行されます。

本商品を工場出荷時の状態に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えたり、「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは」（P.18）を実行するなどして、再設定できるようにしておいてください。本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。

●初期化スイッチを使う

1　本商品の電源が入っている状態で、クリップなど堅くて細いものを使用して背面の初期化スイッチを押します。

2　初期化スイッチを５秒以上押し、STATUS LED が点滅したら初期化スイッチを離します。

3　初期化の処理中は STATUS LED が点灯し、その後 STATUS LED が消灯して、本商品が工場出荷状態に戻ります。

●設定画面を使う

1　設定画面の「管理」を選択します。

2　「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］を押します。

3　「『工場出荷時の状態へ戻す』を実行しますか?」と表示されるので、［OK］を押します。

「かんたんスタート」CD-ROMを使わないでネットワーク接続するには

付属の「かんたんスタート」CD-ROMを使わずにネットワーク接続を行う場合、接続をする前の準備として次の２つを確認してください。

・ネットワークアダプタが正常に動作していること
・TCP/IPがIP自動取得になっていること

確認と設定の方法はOSの種類など、ご使用の環境により異なります。次の手順を参考にしてください。

●Windows XPの場合

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

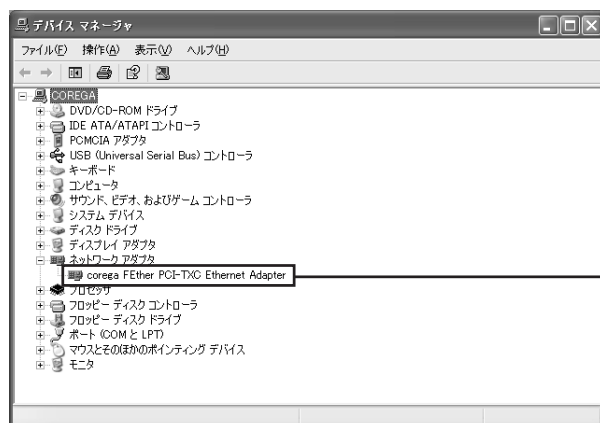
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているかを「デバイスマネージャ」で確認します。

1　「スタート」−「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

2　「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］を押します。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることと、名称の横に「×」や「！」マークがないことを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

■TCP/IP プロトコルを確認する

1 「スタート」－「コントロールパネル」の順に選択します。

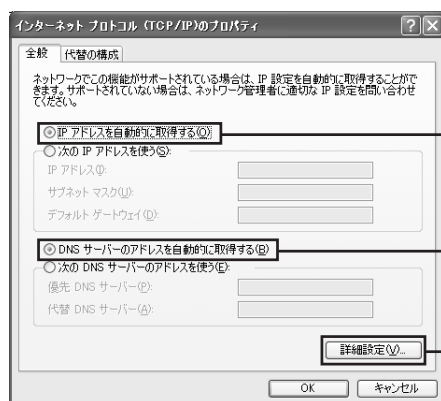
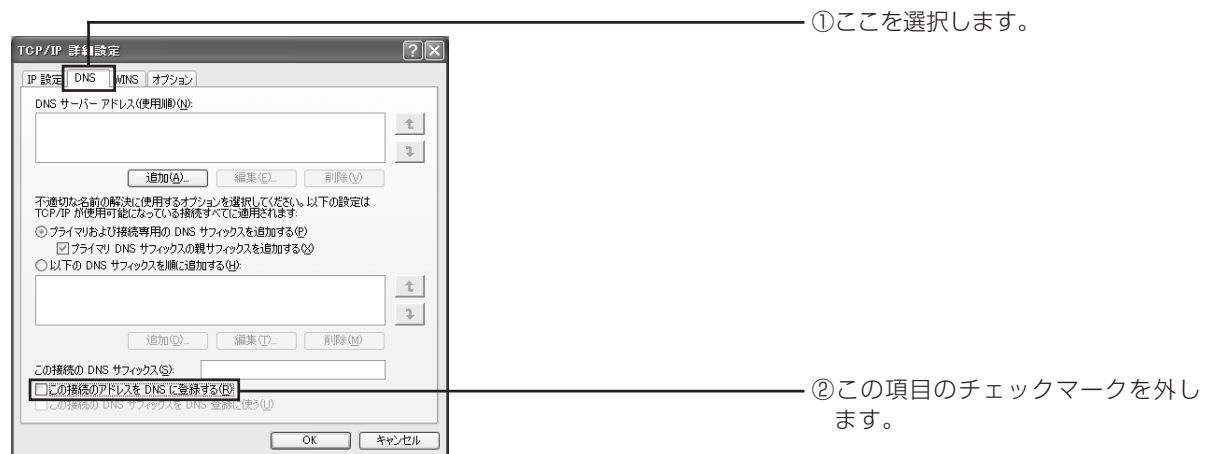
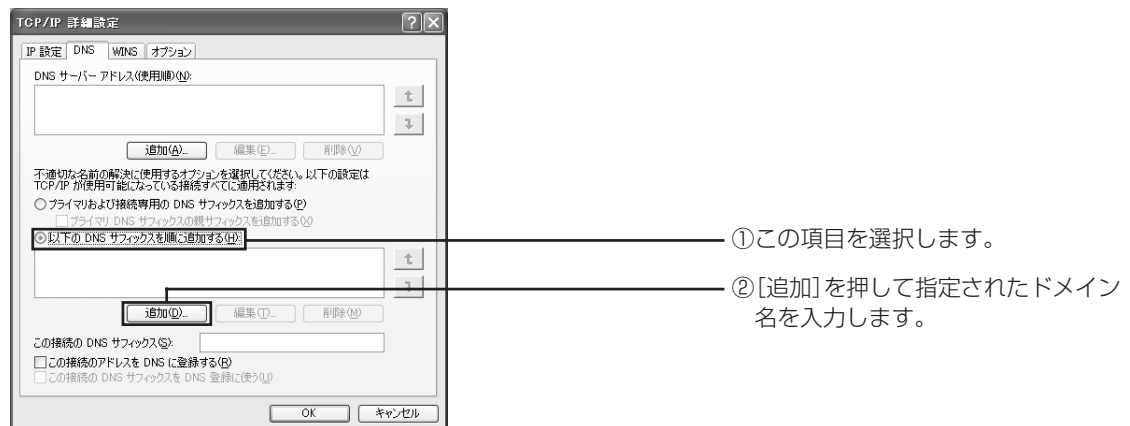
2 「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」を押します。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」を選択してください。

3 「ネットワーク接続」を選択します。

4 「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」にチェックマークが付いているかを確認します。

6 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］を押します。

7 「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］を押します。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックマークを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］を押して指定されたドメイン名を入力してください。

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］を押します。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］を押します。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［閉じる］を押します。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.32）に進みます。

●Windows 2000の場合

この作業は「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。
ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているかを「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

2　「ハードウェア」タブを選択し、[デバイスマネージャ] を押します。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることと、名称の横に「×」や「！」マークがないことを確認します。

「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。
ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

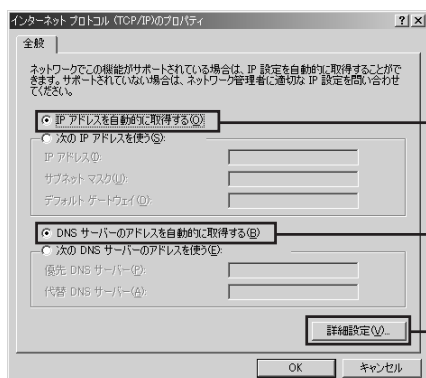
■ TCP/IP プロトコルを確認する

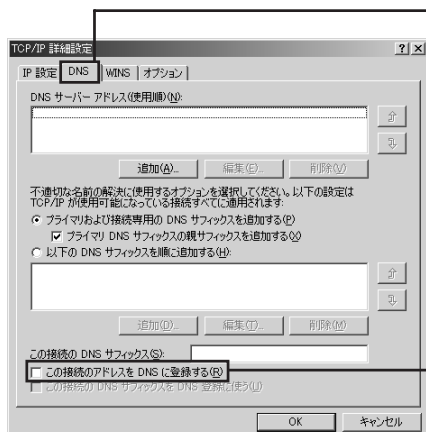
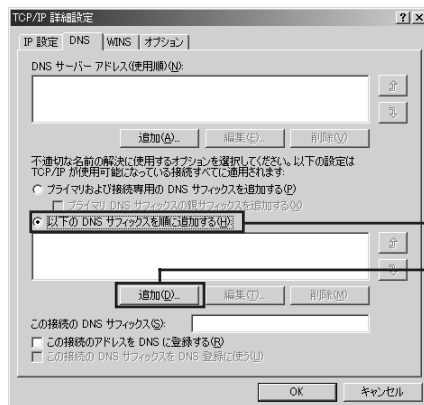
1　「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順に選択します。

2　「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

3　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」にチェックマークが付いているかを確認します。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.27）をご覧ください。

4　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］を押します。

5　「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］を押します。

6　「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックマークを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］を押して指定されたドメイン名を入力してください。

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］を押します。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］を押します。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］を押します。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.32）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

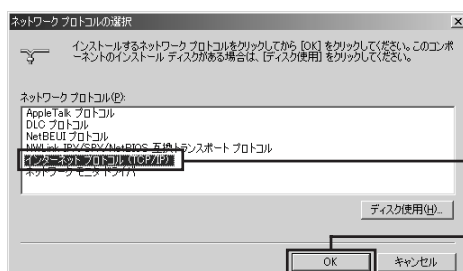
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順に選択します。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で［インストール］を押します。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］を押します。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］を押します。

6　「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認し、[OK] を押して画面を閉じます。

7　再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.26）からの設定を行ってください。

●Windows Me／98SEの場合

■ダイヤルアップを設定する

お使いのパソコンにモデムが内蔵されている場合は、モデムから通信を行わないようにしておく必要があります。

1　デスクトップにある「Internet Explorer」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

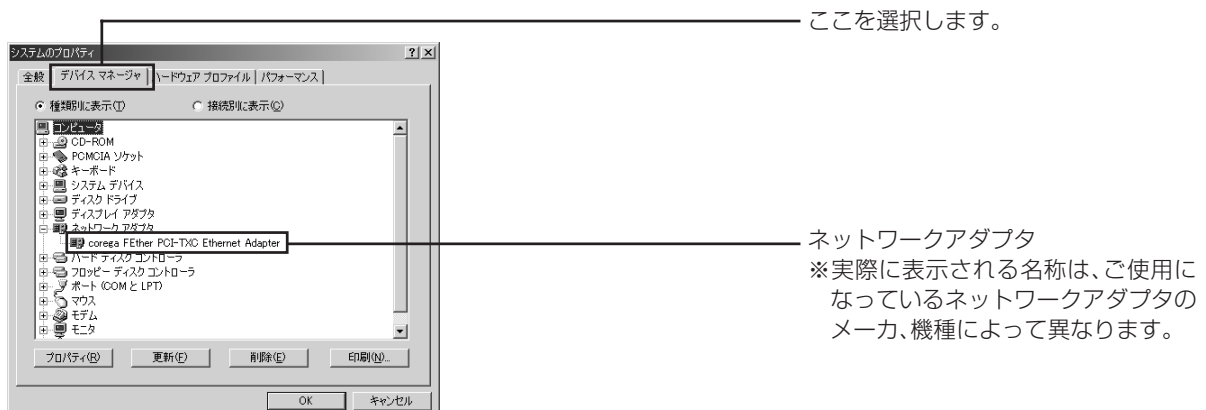
2　「接続」タブを選択し、「ダイヤルアップの設定」で「ダイヤルしない」を選択し、[OK] を押します。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているかを「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

2　「デバイスマネージャ」タブを選択し、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

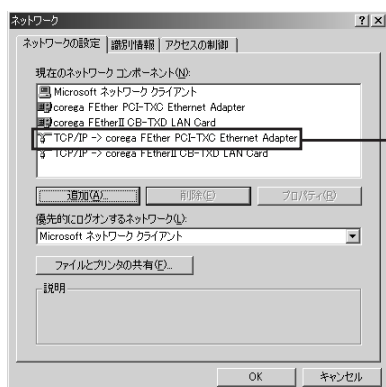
3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることと、名称の横に「×」や「！」マークがないことを確認します。

- **「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。**
- **「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」、「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。**

■ TCP/IP プロトコルを確認する
ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1　「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

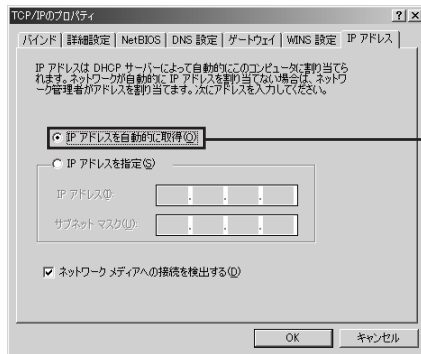
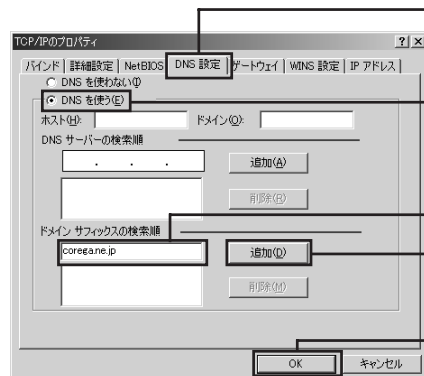
2　「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」を押すと、「ネットワーク」が表示されます。

3　「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.31）をご覧ください。

4　「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］を押します。

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタを選択します。

5 「IP アドレス」タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブで「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］を押してください。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の［OK］を押します。

7 「ネットワーク」画面の［OK］を押します。

メモ WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（もしくはフロッピーディスクドライブ）にWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.32）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

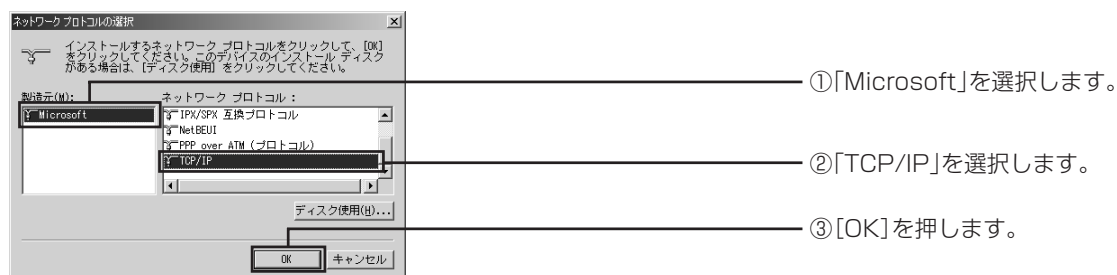
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の画面で、［追加］を押します。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］を押します。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］を押します。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －＞ XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確認します。

7 ［OK］を押して「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.29）からの設定を行ってください。

●Webブラウザの設定をしよう

本商品を利用できるように、Web ブラウザの設定を行います。ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を例に説明しています。その他の Web ブラウザの場合は、Web ブラウザのヘルプなどをご覧ください。

1　Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順に選択します。

2　「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブを選択します。

3　［LAN の設定］を押します。

4　「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で、「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5　［OK］を押します。

6　「インターネットオプション」画面で ［OK］ を押します。

次に「パソコンと本商品を接続しよう」（次ページ）に進みます。

●パソコンと本商品を接続しよう

■本商品を設置する場所について

・本商品に同梱されている「安全にお使いいただくためにお読みください」をご覧いただき、使用時の注意等についてご確認ください。
・本商品の上面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
・本商品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属の縦置きスタンドを本商品に取り付けることで、本商品を立てて設置できます。取り付け方法は、本商品に同梱されている「かんたんスタート」（CD-ROM）をご覧ください。

〈設置に適した場所〉

・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

〈設置に適さない場所〉

・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本商品の電源を入れる

〈本商品の電源の取り方〉

本商品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

〈本商品の電源の入れ方／切り方〉

本商品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

・本商品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
・ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。

■パソコン、モデムと本商品を接続する

・本商品とパソコンを接続する LAN ケーブルの長さは 100m 以内にしてください。
・本商品とパソコンを接続する LAN ケーブルは、100BASE-TX で接続する場合はカテゴリ 5 以上、10BASE-T で接続する場合はカテゴリ 3 以上の LAN ケーブルを使用してください。

1 本商品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本商品背面の LAN ポートに LAN ケーブルを接続します（①）。

3 LAN ケーブルのもう一方をパソコンの LAN ポートに接続します（②）。

4 本商品背面の WAN ポートに付属の LAN ケーブルを接続します（③）。

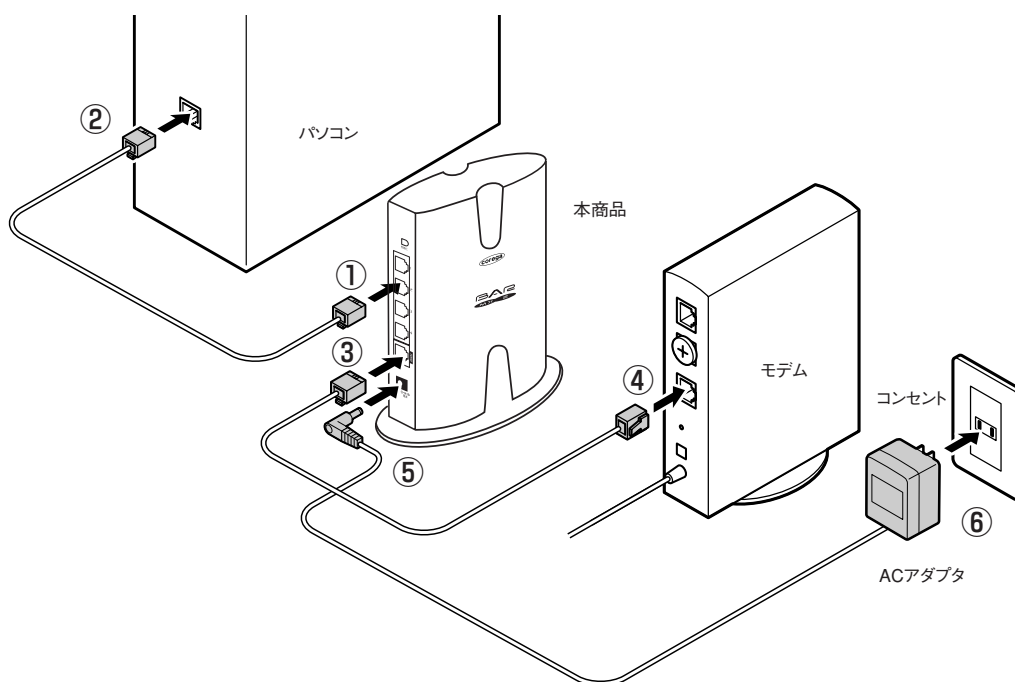
5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します（④）。

6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本商品背面の DC ジャックに専用 AC アダプタを接続します（⑤）。

8 付属の AC アダプタをコンセントに接続すると電源が入ります（⑥）。本商品前面の POWER、STATUS、WAN の各 LED が点灯していることを確認します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本商品前面の、ケーブルを接続した LAN ポートの番号の LED が点灯していることを確認します。

●本商品の設定をしよう

本商品を使ってインターネットに接続できるように本商品の設定を行います。設定作業は本商品に接続されているパソコンのうちの１台から、Web ブラウザを使って行います。

Web ブラウザには Internet Explorer 5.5 以降をご利用ください。これ以外の Web ブラウザでは、設定が正常に行えない場合があります。

■簡単な設定方法

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。

設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止、起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

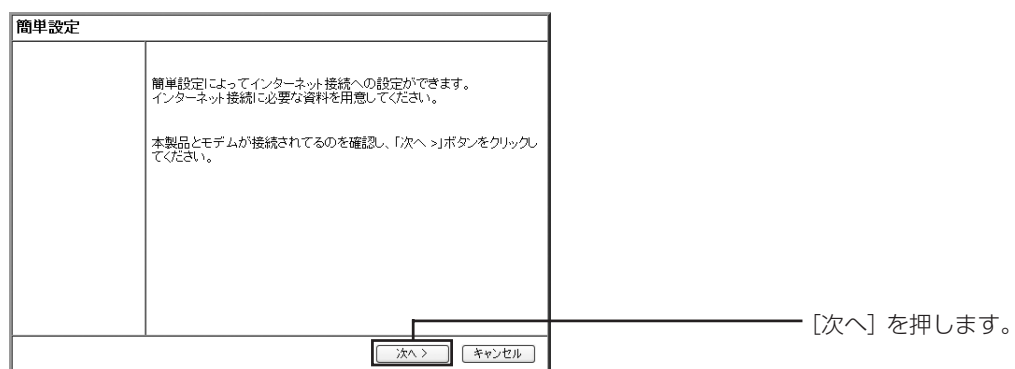
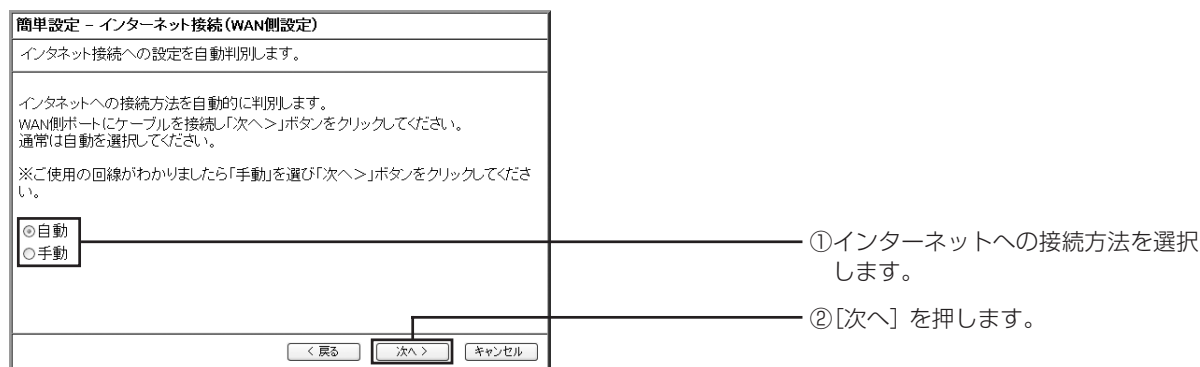
2　Web ブラウザのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

ルータ機能が「無効」に設定されている場合は、変更した IP アドレスを入力します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、パスワードは空欄のままで［ログイン］を押します。

- **工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。**
- **ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したいときは」（P.14）をご覧ください。**

4　設定画面が起動します。左側にある「簡単設定」を選択します。

5　「簡単設定」画面が表示されたら、[次へ] を押します。

6　「簡単設定-インターネット接続（WAN側設定)」画面が表示されたら、インターネットへの接続方法を選択し [次へ] を押します（通常は「自動」を選択します)。

〈「自動」を選択した場合〉

WAN 側回線を自動で判別します。結果が表示されたら［次へ］を押します。

〈「手動」を選択した場合〉

インターネットへの接続方式はご契約のプロバイダによって異なります。インターネットへの接続タイプを選択し、［次へ］を押して手順にしたがって設定を行ってください。

・IP 自動取得（DHCP）− Yahoo! BB、CATV など

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）からIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

・IP 固定設定−固定 IP サービスなど

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）から固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

・PPPoE（FLET'S シリーズ）−フレッツ・ADSL、B フレッツなど

PPPoE と呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダよりユーザ名とパスワードが割り当てられます。本商品ではプロバイダの情報を設定画面に登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

7　接続タイプに応じて各項目の設定をします。次の接続方法ごとの説明をご覧いただき、設定を行ってからP.40の手順8へお進みください。

〈「IP自動取得（DHCP）」の場合〉

「IP自動取得（DHCP）」を選択した場合は、「簡単設定」で設定する項目はありません。P.39の手順8に進んでください。

〈「IP固定設定」の場合〉

「WAN側IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「DNSサーバ」を入力して、[次へ]を押します。

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。

項目名	入力例	説明
① WAN側IPアドレス	12.34.56.78	プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダから指定されたゲートウェイのIPアドレスを入力します。
④ DNSサーバ1	12.34.56.98	ローカルにDNSサーバを設置する場合、またはプロバイダからDNSサーバのIPアドレスを提供されている場合に入力します。

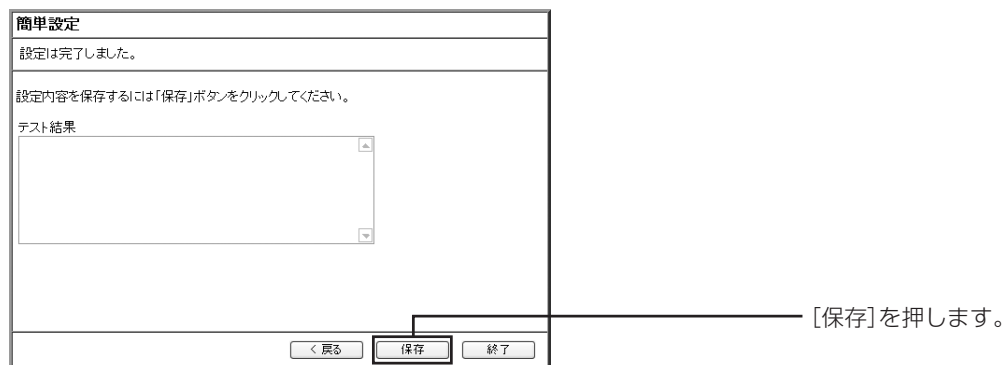
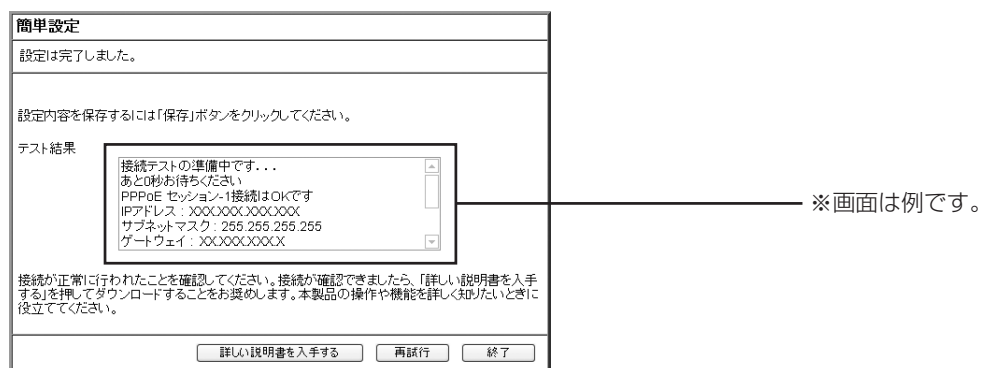
〈「PPPoE（FLET'S シリーズ）」の場合〉

① 「接続ユーザ名」、「接続パスワード」を入力し、［次へ］を押します。

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。

項目名	入力例	説明
①接続ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された接続ユーザ名を入力します（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）。
②接続パスワード	Password02	プロバイダより指定された接続パスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。 ※入力可能な文字は、「”」「¥」「:」「’」を除く半角の英数字記号で 25 文字までです。
③パスワードの確認	Password02	②で入力したパスワードを確認のためにもう一度入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。

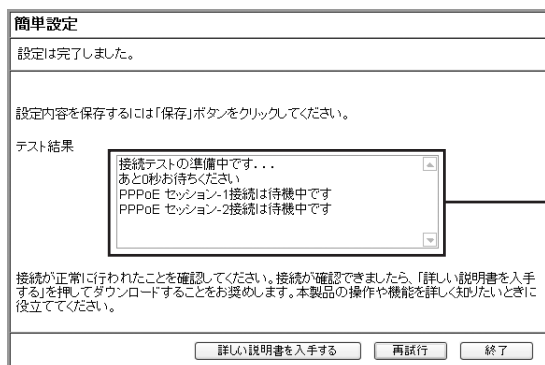
② フレッツ・スクウェアをご利用になる場合はご利用地域（「東日本」もしくは「西日本」）を、利用しない場合は「利用しない」を選択して［次へ］を押します。

8　次の画面が表示されたら、［保存］を押します。

9　しばらくするとテスト結果が表示されるので、確認してください。パソコン、モデムと本商品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「OK」と表示されます。

上の画面のように表示されなかった場合は、［再試行］を押して再度テストを行ってください。それでもテスト結果の覧に「OK」と表示されなかった場合は、「テストに失敗したときは」（次ページ）をご覧ください。

10　接続に問題がないことが確認できたら、［詳しい説明書を入手する］を押してダウンロードすることをおすすめします。最後に［終了］を押して設定画面の最初の画面に戻ります。

- **その他の設定項目については、「PART2 設定画面を見てみよう」（P.42）をご覧ください。本商品のより高度な使用方法については、「PART1 こんなときにはこの設定」（P.5）をご覧ください。**
- **PPPoE セッションを同時に2つ使用する（マルチ PPPoE）場合には、「マルチ PPPoE で2つの接続先を使い分けるには」（P.9）をご覧ください。**

■テストに失敗したときは

［再試行］を押してもテスト結果の欄に「OK」と表示されず次のように表示されたときは、接続テストは失敗しています。

接続テストの失敗には次のような原因が考えられます。［終了］を押し、次の事項を確認した後、はじめからやり直してください。

×ユーザ名かパスワードの入力を間違えている
プロバイダからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

×モデムと回線が正しく接続されていない
モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。

●インターネットに接続してみよう

パソコンと本商品の設定が完了したら、インターネットに接続できるか確認します。

1 本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer などの Web ブラウザを起動します。

2 Webブラウザのアドレス入力欄に弊社のホームページアドレス「http://corega.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3 弊社のホームページが表示されれば、インターネットに接続できています。

- **ご契約のプロバイダによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合せください。**
- **インターネットに接続できなかった場合は、付属の冊子「Q&A」をご覧ください。**

●他のパソコンを接続するときは

本商品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「『かんたんスタート』CD-ROMを使わないでネットワーク接続するには」（P.22）、「Web ブラウザの設定をしよう」（P.32）、「パソコンと本商品を接続しよう」（P.33）をご覧いただき、同じ手順でパソコンの設定を行い、本商品のLAN側ポートとパソコンをLANケーブルで接続してください。

PART 2

設定画面を見てみよう

このPARTでは、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定画面の全体構成について

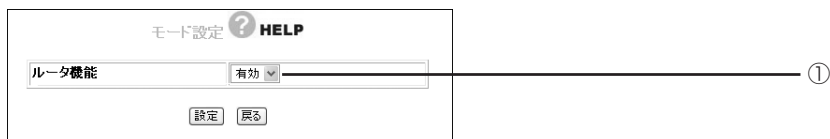
設定画面の各機能

- このPARTでの説明は、例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
- 各設定画面にある「HELP」を押すと、説明が表示されます。
- 各設定画面の例は、PPPoE 接続の画面です。IP 自動取得（DHCP）接続や IP 固定接続では、画面が例と違う場合があります。
- 設定変更を行った際は、各画面下にある［設定］または［更新］を押して、設定内容を保存してください。

●CG-BARMX2（トップページ）

設定画面起動時の画面です。メニューリスト（画面左側）他、インターネットに接続後は［ユーザ登録］、［取扱説明書］、［Q and A］を押すと、必要なページを表示させることができます（画面右側）。［ログアウト］を押すと、設定画面からログアウトすることができます。（ログアウト後［再び入る］を押すと設定画面に再度ログインすることができます。）終了時には Internet Explorer を閉じてください。

●モード

本商品のルータ機能の「有効」／「無効」を切り替えます。

項目名	内容
①ルータ機能	本商品をルータとして使用する場合は「有効」に設定します。スイッチングハブとして使用する場合は「無効」に設定します。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。

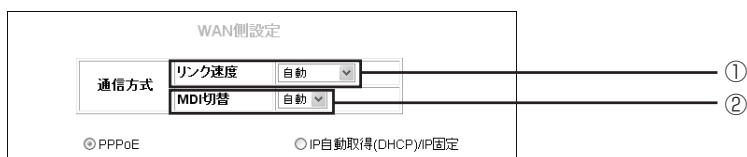
●簡単設定

インターネット接続に関する設定を簡単に行うことができます。設定の詳細については、「本商品の設定をしよう」（P.35）をご覧ください。

●WAN側設定（インターネット）

インターネット接続に関する詳細な設定ができます。ご契約のプロバイダまたは回線業者の接続タイプに合わせて「PPPoE」（P.45）または「IP 自動取得（DHCP）／IP 固定」（P.49）を選択し、設定してください。「簡単設定」で設定済みの場合は、その設定内容が表示されます。

フレッツ・ADSL、B フレッツなど	PPPoE（P.45）
Yahoo! BB、CATV など	IP 自動取得（DHCP）／IP 固定（P.49）

本商品は WAN 側の通信方式を選択できます（通常は変更する必要はありません）。変更する際には、次の画面と表をご覧いただき、お使いの環境に合わせて設定してください。

項目名	内容
①リンク速度	本商品と WAN 側に接続する機器間のリンク速度を選択できます。
② MDI 切替	本商品の WAN ポートの MDI/MDI-X を切り替えることができます。

■ PPPoE…フレッツ・ADSL、B フレッツなど

PPPoE でインターネットに接続する場合に選択します。

項目名	内容
① Account-1 ～ 5	アカウントの名称を表示します。
②セッション -1/-2 設定	WAN 側の PPPoE の設定を行います。
③接続先設定（セッション２のみ有効）	接続アカウントを使用する条件を設定します(P.48)。

・セッション -1/-2 設定

PPPoE 接続時にセッションを２つ使用する場合に設定します。セッションごとに使用するアカウントを登録することができます。

本商品は、1つのブロードバンド回線で、通常インターネットに接続するPPPoE接続（セッション1）とは別に、特定の接続先に他の経路（セッション2）で接続できます。これによりインターネットサービスプロバイダと接続したまま、同時に特定の接続先が提供するサービスを利用することができます。

〈セッション -1〉

〈セッション -2〉

項目名	内容
①セッション選択	「セッション 1」または「セッション 2」を選択します。
②［接続］	リンクが接続されます。
③［切断］	リンクが切断されます。
④アカウント選択	・「セッション 1」と「セッション 2」で合計５つのアカウントを登録できますが、同じアカウントを「セッション 1」と「セッション 2」の両方に登録することはできません。 ・アカウントを選択して、⑥～⑮までを設定した後、［設定］を押すとアカウントが登録できます。また、アカウント名の右側にある［アカウント名変更］を押すとアカウント名を変更できます。
⑤ MAC アドレス	本商品の WAN 側（インターネット側）MAC アドレスを表示します。
⑥接続ユーザ ID	プロバイダから指定されたアカウントのユーザ ID を入力します。
⑦接続パスワード	プロバイダから指定されたアカウントのパスワードを入力します。
⑧接続パスワードの確認	確認のため、⑦で入力したパスワードを再度入力します。
⑨接続方法	・常時接続 常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガ接続 パソコンからインターネットへの接続要求があった場合に、自動的に PPPoE 接続を開始します。 ・手動接続 手動で接続しない限り、インターネットへ接続しません。
⑩無通信時間監視	無通信状態になってから自動的に PPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。（トリガ接続、手動接続の場合のみ）。 ※「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は「0 分」になります。
⑪ MTU 値	右側の「自動調整」にチェックを付けると、MTU 値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと、576 バイトから 1492 バイトの範囲で設定できます。

項目名	内容
⑫ PPPoE サービス・タイプ	使用する PPPoE のサービスタイプを選択します。 ・PPPoE（セッション 2 設定可） 通常のマルチ PPPoE 接続で通信します。 ・Unnumbered IP（セッション 2 使用不可） 複数のグローバルIP※1を使用するサービスを利用する際に使用します。 ・ルータ IP とサブネットマスクは、本商品の IP アドレスとして同じアドレスが WAN 側／ LAN 側に設定されます。 ・グローバル IP を LAN 側（パソコン側）で使用するときは、LAN 側（パソコン側）でグローバル IP を固定で設定してください。 ・Unnumbered IP+Private IP（セッション 2 使用不可） 複数のグローバル IP とプライベート IP※2 を同時に使用することができます。 ・Unnumbered IP設定に対してルータIPを設定することで本商品のグローバル IP を使って IP マスカレード※3 機能を使用することができます。 ・グローバル IP を LAN 側（パソコン側）で使用する場合は、LAN 側（パソコン側）でグローバル IP を固定で設定してください。
⑬ルータ IP	プロバイダから割り当てられたIPアドレスを入力してください（⑫で Unnumbered IPおよびUnnumbered IP+Private IPを選択した時のみ）。
⑭サブネットマスク	プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力してください（⑫で Unnumbered IP および Unnumbered IP+Private IP を選択した時のみ）。
⑮ DNS サーバ	プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。 ・自動設定 DNS サーバの IP アドレスが自動割り当ての場合に選択します。 ※サーバの値は自動的に設定されます。 ・マニュアル設定 プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指定されている場合に選択し、IP アドレスを入力します。
⑯［設定］	設定を変更した後、保存するとき押します。
⑰［取消］	［設定］を押す前に限り、設定を変更する前の状態に戻ることができます。
⑱［戻る］	「PPPoE」画面に戻ります。

※1：グローバルIP
インターネットで使用されるIPアドレスのことです。グローバルIPアドレスとも呼びます。
※2：プライベートIP
イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレスのことです。プライベートIPアドレスとも呼びます。
※3：IPマスカレード
グローバルIPを企業等で1つ持ち、複数のパソコンで共有する機能です。企業内で持つプライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現できます。

・接続先設定
B フレッツなど、PPPoE 画面で登録した「セッション２」経由で接続するネットワークの設定を行います。

1　「接続先設定（セッション２のみ有効)」を押します。

2　次の画面が表示されるので、各項目を設定します。

項目名	内容
①接続アカウント	接続するアカウントを選択します。
②ルール選択	接続先に使用するルールを選択します。
③ドメイン名	接続先のドメイン名を入力します。 例：www.corega.co.jp →「corega」 www.flets →「.flets/」
④ IP アドレス	接続先の IP アドレスを入力します。 例：http://192.168.10.1 →「192.168.10.1-0」 ftp://192.168.10.1と192.168.10.2→「192.168.10.1-2」
⑤ネットワーク	接続先のネットワークアドレスを入力します。 例：http://172.16.XX.XX →「172.16.0.0/16」 ftp://192.168.10.XX →「192.168.10.0/24」
⑥開始ポート／ 終了ポート	接続先の開始および終了ポート番号を入力します。 例：http://www.corega.co.jp →「80-80」 ftp://corega.co.jp →「20-21」
⑦プロトコル	使用するプロトコルを選択します。

「ルール選択」で選択した項目によっては入力できないことがあります。

■ IP 自動取得（DHCP）／IP 固定…Yahoo! BB、CATV など

プロバイダからIPアドレスが特に指定されていない場合、または固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

項目名	内容
① MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。
②タイプ／ IP 自動取得（DHCP）	プロバイダからIPアドレスを特に指定されていない場合に選択します。IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバアドレスなどインターネットに必要な情報を、DHCP 機能を利用して自動的に取得します。
③タイプ／ IP 固定	プロバイダから固定IPアドレスを割り当てられている場合に選択します。設定値は手動で入力します（次の項目は、「IP 固定」を選択した場合のみ表示されます）。 ・WAN 側 IP アドレス 　プロバイダから割り当てられた IP アドレスを入力します。 ・サブネットマスク 　プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力します。 ・デフォルト・ゲートウェイ 　プロバイダから割り当てられたゲートウェイアドレスを入力します。
④ドメイン名	プロバイダから指定されている場合、ドメイン名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
⑤コンピュータ名	プロバイダから指定されている場合、コンピュータ名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
⑥ MTU 値	576 バイトから 1500 バイトの範囲で設定できます。お使いの環境に合わせて変更してください。
⑦ DNS サーバ※	・自動設定 　プロバイダよりDNSサーバを自動設定する指示があった場合、または特に指示がない場合に選択します。 ・マニュアル設定 　プロバイダより DNS サーバの IP アドレスが指定されている場合に選択し、指定された IP アドレスを「DNS サーバ 1」、「DNS サーバ 2」に入力します。

※：DNSサーバ
　インターネット上のパソコンの名前であるドメイン名を、住所にあたるIPアドレス（4つの数字の列）に変換するコンピュータのことです。

■ダイナミック DNS
インターネット側からIPアドレスではなくURL（ドメインネーム）を使用してLAN内のバーチャルサーバに接続できるように設定できます。WAN側のIPアドレスが固定されないサービスでも、URLを指定して接続することが可能です。

1　ダイナミックDNSサービスに登録手続きをします。登録は「corede.net」（無料サービス／一部有料サービス）、「DynDNS.org」（無料サービス）、「IvyNetwork」（有料サービス）、「@Net DDNS」（有料サービス／「@NetHome」会員のみ）の４つから選択できます。登録が完了すると、ダイナミック DNS サービスからユーザ登録確認メールが送信されてきます。

ダイナミックDNSサービスへの登録について詳しい説明をホームページからご覧になることができます。コレガのホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」ー「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください。

2　ダイナミック DNS サービスから送られてきた「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」を入力して［設定］を押します。

3　本商品を再起動します。再起動の方法は「本商品を再起動するには」（P.20）をご覧ください。

4　本商品はその時点で使用しているIPアドレスを自動的にダイナミックDNSサービスに記録します。設定したダイナミック DNS を使用して、バーチャルサーバへの接続が可能になります。

項目名	内容
①ダイナミック DNS	ご利用になるダイナミック DNS サービスを選択します。
②ログイン名	ダイナミック DNS サービスに登録したログイン名を入力します。
③ログインパスワード	ダイナミック DNS サービスに登録したパスワードを入力します。
④ドメイン名	ダイナミックDNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。
⑤ IP チェック時間	取得したドメイン名と IP アドレスの整合性を指定時間で確認します。

■パススルー
各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

項目名	内容
①ダイレクト PPPoE	PPPoE パススルーの有効／無効を選択します。
② VPN パススルー	VPN パススルーの有効／無効を選択します。
③ IPv6 ブリッジ	IPv6 ブリッジの有効／無効を選択します。

●LAN側設定

LAN 側の詳細な設定を行います。

■ルータ IP
LAN 側の IP アドレス、サブネットマスク、URL ホームを設定します。LAN 側の IP アドレスを変更したい場合に設定してください。

項目名	**内容**
① MAC アドレス	本商品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。
② LAN 側 IP アドレス※1	本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します。IP アドレスの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.1」に設定されています。
③サブネットマスク※2	本商品のLANインタフェース※3のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。
④ URL ホーム	この欄に入力した値ををWebブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定画面のトップページが表示されます。「.」（ドット）を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で入力します。 ※本機能はルータ機能が有効でDHCPで接続している場合のみ使用できます。 ※「.」（ドット）はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。 ※工場出荷時は「corega.home」に設定されています。

※ 1：IPアドレス
TCP/IPプロトコルを使ったネットワークで、コンピュータを識別するためのアドレスのことです。
※ 2：サブネットマスク
IPアドレスの先頭部分となり、IPアドレスのネットワーク·アドレス部を増やす方法です。
※ 3：インタフェース
2つのものの間で情報のやりとりを仲介するものです。

■ DHCP サーバ／PC データベース

・DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更したいときに各項目の設定を行います。

項目名	内容
① DHCP サーバ	DHCP機能の有効／無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンに IP アドレスを割り振ります。
②リース期限継続方法	DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限継続方法の期限指定／無期限を選択します。
③リース期限	DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限を指定します。※②で期限指定を選択している場合に設定できます。
④ DHCP 開始アドレス	DHCP サーバでリース開始の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.21」に設定されています。
⑤ DHCP 終了アドレス	DHCP サーバでリース終了の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.50」に設定されています。

・PC データベース

本商品に接続しているパソコンの一覧を表示して IP アドレスを管理することができます。

項目名	内容
①パソコン名	PC データベースに追加するパソコンの名称を入力します。
② IP アドレス	IP アドレスの取得方法を選択します。 ・自動取得（DHCP クライアント） パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IP アドレスは本商品が自動的に割り当てます。 ・固定取得（DHCP クライアント） パソコン側でIPアドレスを自動取得に設定している場合でも、指定したパソコンに毎回同じ IP アドレスを割り当てます。 ・固定設定（DHCP 範囲以外） パソコン側で固定IPアドレスを設定している場合に選択し、IPアドレスを入力します。
③ MAC アドレス	適切なオプションを選択します。 ・自動検索 パソコンがLANに接続されている場合に、本商品が自動的にパソコンの MAC アドレスを検索します。 ・MAC アドレスは パソコンの MAC アドレスを直接設定する場合に選択し、MAC アドレスを入力します。本商品が各パソコンを個別に認識するために使用しますので、MAC アドレスを空欄にしたままでの使用はできません。
④［PC データ追加］	PC データを入力したパソコンを PC リストに追加します。
⑤［データの削除］	選択したパソコンのデータを PC リストから削除します。
⑥［戻る］	「PC データベース」の画面に戻るときに押します。

●セキュリティ設定

不正アクセスなどに対する、本商品のセキュリティを設定します。

項目名	内容
①ステルスモード	本商品にpingコマンドが送信された場合に、返答するかどうかを有効／無効で選択します。無効を選択すると、pingコマンドに返答し、有効を選択すると返答しません。
②ファイアウォール	ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度が遅くなるなどの影響がでる場合があります。

■アクセス制限

ローカル（LAN 側）に接続されているパソコンからインターネット（WAN 側）へのアクセス制限を、最大10 件まで登録することができます。

項目名	内容
①制限する IP アドレス	アクセス制限をするパソコンのIPアドレスを含んだ、IPアドレスの範囲を登録します。
②制限するサービス	アクセス制限をするサービスを、登録されているサービス一覧から選択して設定をすることができます。
③プロトコル	アクセス制限をするサービスが②のサービス一覧にない場合は、②で「ユーザ定義」を選択し、ここでプロトコルを選択します。
④制限するポート範囲	アクセス制限をするサービスが②のサービス一覧にない場合は、②で「ユーザ定義」を選択し、ここで任意のポート範囲を指定します。
⑤スケジューリング	アクセス制限をする時間を、登録されているスケジュールから選択して設定をすることができます。登録方法は「スケジュール」（次ページ）をご覧ください。

■URL フィルタ
接続を制限したい URL や文字列を、最大 10 件まで登録することができます。

項目名	内容
①説明	任意の説明を付けることができます。
②制限する IP アドレス	アクセスを制限したいパソコンのIPアドレスを含んだ、IPアドレスの範囲を登録します。
③ URL または キーワード	アクセスを制限したい URL やキーワードを登録します。 例：violence

■スケジュール
アクセス制限をするスケジュールを、最大 10 件まで登録することができます。登録した設定は「アクセス制限」の「スケジューリング」(P.54) で使用します。

項目名	内容
①名前	任意の名前を付けることができます。
②コメント	任意のコメントを付けることができます。
③スケジュール	アクセス制限をする曜日の「開始時間」と「終了時間」に、24時間表記で時間を入力します。

●詳細設定

■バーチャル・サーバ

インターネット（WAN 側）から本商品に接続したパソコン（LAN 側）にアクセスできるように設定し、外部にサーバを公開することができます。

- パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
- ダイナミックDNS機能を使用することで、より簡単にインターネット上からLAN上のサーバに接続することができます。
- インターネット上のホストが行う本商品のWAN側IPアドレスとポート番号を指定したアクセスは、バーチャルサーバ機能によって指定された接続先（パソコン）にアクセスします。同じLAN内で同種類のサーバを立ち上げたいときは、ポート番号が重複しないようにしてください。

項目名	内容
①接続先	サーバにするパソコンを選択します。
②サービス	設定するサービスを選択します。
③ポート範囲	設定するポートの範囲を入力します。「詳細設定」にチェックを付けると、WAN 側と LAN 側のポート範囲が入力できます。
④プロトコル	バーチャルサーバで使用するプロトコルを選択します。
⑤備考	バーチャルサーバの説明を入力します。 ※入力しなくても設定はできます。

①の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」（P.52）をご覧ください。

■ DMZ

外部にサーバを公開したり、ネットワークゲームをする場合など、本商品に接続したパソコン（DMZホスト）にすべての入出力アクセスが可能になるように設定することができます。

項目名	内容
① DMZ ホスト	DMZ 機能を使用したいパソコンを選択します。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

DMZホストとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでホストとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」（P.52）をご覧ください。

■ UPnP

UPnP 機能を使用するときに、この項目の設定を行います。

※PPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	内容
① UPnP 使用ポート	押すと UPnP で使用しているポートを確認できます。
② UPnP を使用する	UPnP の有効／無効を選択します。 ※ UPnP 機能は Windows XP でご使用になれます。
③アプリケーションで WAN IP を選択する	UPnP 対応アプリケーションで WAN 側 IP を選択する場合に使用します。 ※ PPPoE 設定時に表示されます。
④WAN 側 IP のセッションを選択する	UPnP を使用する WAN 側 IP（セッション）を選択します。 ※ PPPoE 設定時に表示されます。
⑤WAN の切断機能を有効にする	WAN の切断機能の有効／無効を選択します。有効にすると UPnP 機能を使用して WAN（インターネット側）を切断することができます。 ※ PPPoE 設定時に表示されます。

・UPnP 使用ポート

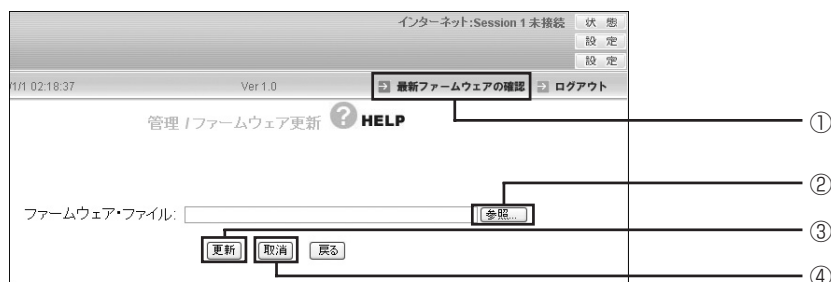
UPnP で使用しているポートを確認できます。

●管理

本商品のログイン名やパスワードなどのシステムを変更するときに設定します。

項目名	内容
①管理者ログイン名	本商品の管理者用のログイン名を変更します。 ※工場出荷時は「root」に設定されています。
②管理者ログイン・パスワード	本商品の管理者用のパスワードを設定します。空欄にした場合、ログイン時にパスワードの入力が不要になります。 ※工場出荷時は何も設定されていません。
③パスワードの確認	確認のため②で入力したパスワードを再入力します。
④ IP マスカレード・テーブル保持時間	IP マスカレード・テーブルの保持時間を設定します。設定時間を長くすることで、FTP サーバ等への長時間の接続に対応します。 ※通常のインターネット接続では設定する必要はありません。
⑤時間設定	本商品の内蔵時計を設定します。 ・自動設定 NTP サーバに接続し、自動的に時刻を設定します。 ・手動設定 手動で設定する場合に選択し、入力欄に入力します。
⑥工場出荷時の状態へ戻す	本商品の設定を工場出荷時の初期状態に戻します。 ※重要な設定値はメモなどに控えておくことをおすすめします。
⑦再起動	設定を変更した後に［実行］を押して本商品を再起動します。
⑧設定保存	本商品の設定のバックアップを行うときに［保存］を押して設定を保存することができます。
⑨設定読込	⑧で保存した設定内容を読込みます。

■ファームウェア更新

最新のファームウェアを弊社ホームページからダウンロードすることができます。入手したファームウェアの更新方法については、「最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは」（P.15）をご覧ください。

項目名	内容
①［最新ファームウェアの確認］	現在お使いのファームウェアが最新のものかどうかを判定し、結果を表示します。最新でない場合は［ファームウェアのダウンロードページへ］を押すと、最新のファームウェアに更新できるダウンロードページに自動的に接続されます。
②［参照］	入手したファームウェアの保存先を選択するときに押します。
③［更新］	ファームウェアの更新を開始します。
④［取消］	ファームウェアの更新を中断します。

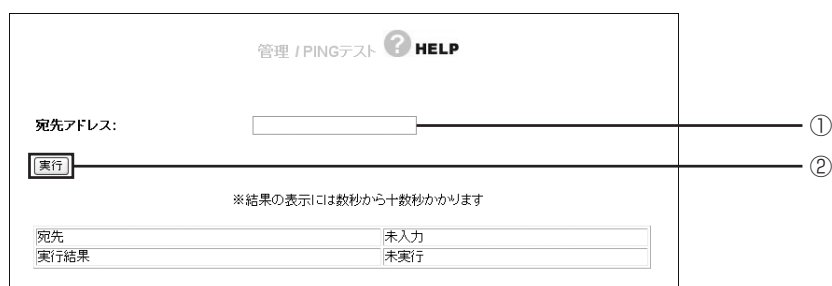
・更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。

・ファームウェアをアップデートする前に、設定内容をメモなどに控えておいてください。

・ファームウェアのアップデート中は、他の操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。アップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

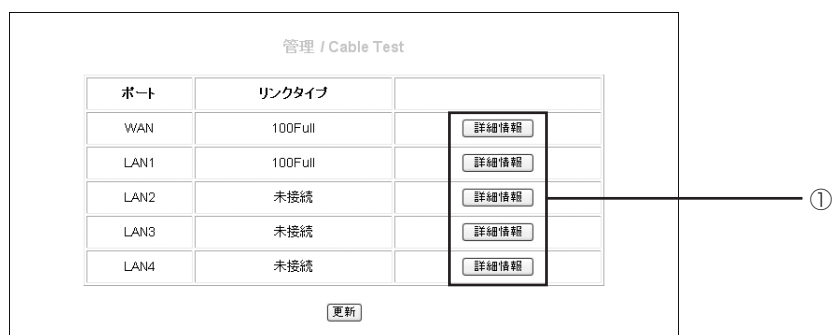
■リモート

本商品をインターネット（WAN 側）から設定できるようにします。

項目名	内容
①リモート設定	リモート設定の有効／無効を選択します。有効を選択するとインターネット（WAN 側）から本商品を設定することができます。
②ポート	インターネット（WAN側）から本商品に接続する場合のポート番号を指定します。1 ～ 9600 の範囲で入力してください。 ※工場出荷時は「8080」に設定されています。

・リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。

・インターネット側からの接続の際、下記のように IP アドレスの後ろに「:ポート番号」を指定してください。

例：http://WAN 側 IP アドレス:ポート番号

■PING テスト

本商品に接続している他のパソコンが、通信可能な状態かどうかを確認するためにテストができます。

項目名	内容
①宛先アドレス	テストを実行するパソコンの IP アドレスを入力します。
②[実行]	①でIPアドレスを入力後に押すとPINGテストを開始します。テスト結果は「実行結果」の欄に表示されます。

■Cable Test

本商品で使用しているポートのリンク速度を表示します。

項目名	内容
①［詳細情報］	Cable Test の詳しい内容が表示されます。

●ステータス

各システム情報を表示します。

項目名	内容
①ファームウェア・バージョン	本商品のファームウェアのバージョンが表示されます。
②システム稼動時間	システムを起動してからの経過時間を表示します。
③ LAN 状態	LAN 側の状態が表示されます。
④ WAN 状態	WAN 側の状態が表示されます。

■ログ表示

本体のログ情報を表示します。［更新］を押すと最新の情報に書き換えられます。

・アタック ログ

DoS アタック※が発生した際に、そのログを保存します。

※DoSアタック
インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの1つです。

・DHCP ログ

本商品の DHCP サーバ機能の稼動状況を表示します。

・システムログ

本商品へのアクセス履歴などを表示します。

MACアドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品の MAC アドレスは本体底面に記載されております。
LAN 側の MAC アドレスについては、設定画面の「ステータス」（P.61）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

2006年5月　初版
2006年11月　第二版